

防衛講演会



講師 岩田 清文 氏

日時 令和2年9月24日

場所 千歳市（ホテルグランテラス千歳）

演題 「国際環境の変化と我が国の防衛」

(要 旨)

- 1 軍事情勢の変化（冷戦後も緊張度が高く、厳しい状況）
 - (1) 周辺国の軍事情勢
 - ア 中国（韜光養晦→中国の夢）
 - アヘン戦争の終戦後
 - ・経済建設のための宥和外交と主権国家のための強硬外交
 - 現在（習近平）
 - ・中国の夢→中華民族の偉大な復興
 - ・中国の進出の野望、中国海軍の海洋進出（西太平洋）
 - ・中国空軍による沖縄・宮古島間の通過回数
 - ・中国空軍・ロシア空軍の連携進出（竹島）
 - 中国・ロシア空軍爆撃機が共同して竹島空域を飛行し、日本、韓国の出方を牽制、この際、ロシア空軍早期警戒管制機が両爆撃機を飛行管制していた可能性あり。（中国・ロシアの連携という最悪の事態にも備える必要性がある。）
 - ・中国の国防費の増大
 - （過去30年間で約44倍、最近10年間で約2.4倍増）
 - ・米国の対中危機感（中国の2千発以上の弾道ミサイル「巡航ミサイルの約90%が中距離ミサイル／米国はゼロ）
 - ・米国の戦略転換（戦略爆撃機を米本土に戻し、地上発射型中距離ミサイルを同盟国に配備）
 - 日本としての懸念と対応
 - ・国際法を無視・軽視し、力により現状変更・覇権拡大を続ける

国家と如何に向き合っていくのか。

- ・南西諸島を如何に守るか、中距離弾道・巡航ミサイルの脅威から如何に防護するか、中露の連携に如何に対応していくか etc。

イ 北朝鮮、韓国

○北朝鮮

- ・対日弾道ミサイルの行方（ミサイル発射状況）

○韓国

- ・在韓米軍の撤退、日米間連携／G S O M I A（軍事情報包括保護協定の破棄通告事案）など。
- ・韓国の変化（最悪の場合は、米韓同盟の破棄までを念頭に置くべき状況）

ウ ロシア

○ロシアの軍事戦略・軍事改革（国家安全保障戦略）

- ・軍事戦略（ミサイル防衛を含む核抑止力維持、周辺地域の軍事プレゼンス強化、国内外へ速やかに戦力投入可能な体制の構築）
- ・軍事改革
- ・組織改革（統合化、コンパクト化）
- ・近代化（2020年までに7割を新型装備）
- ・職業軍人化（2020年までに7割を職業軍人化）

○ロシア軍の活動状況

- ・ロシアの歴史上最大の規模の軍事演習（中国軍3,200名、900両、30機、モンゴル軍初参加）
- ・オホーツク海・千島列島の戦略的価値
- ・1個師団を千島列島に配備、パラムシル島、マトウア島、択捉島、国後島に新型地对艦ミサイルバスチオンを配備
- ・ボレイ級戦略原潜に新型S L B Mを16発、最大射程8300km、弾頭部に最大10個の再突入体を搭載
- ・相互確証破壊（MAD）

核による先制攻撃を受けても、その敵国に報復して絶対的な損害を与えることができる核戦力を保持することによって、核攻撃を抑止するという米ソ冷戦時代の核戦略構想

○オホーツク海・千島列島の戦略的価値

オホーツク海を聖域化して首都ワシントンを攻撃できる原子力潜水艦を確実に温存

○ロシアの国防費（最近10年間で約5倍に増加し、中国以上の伸

び。)

(2) 新たな戦争領域・携帯への進化

新たな領域を横断的に活用した防衛体制への変革が急務

○宇宙戦（宇宙領域での競争激化／歯止めなき競争衝突に現実味）

いずれ宇宙空間が主戦場・戦闘領域になるであろう。

・宇宙作戦隊創設（2020.5.18）

○サイバー戦

・サイバー領域での対応力強化（戦事例：サイバー攻撃をうけ Web サイトと基幹インフラがアクセス不能の状態に陥った。）

これまで、最前戦の戦闘は、戦闘機・艦艇・戦車・火砲であったが、これから「サイバー・通信ネットワーク空間」へ拡大

○電磁波戦

・過去にロシア地上軍は多数の電子線部隊を前線に投入、ウクライナ軍等に対して猛烈な通信電子妨害を実施したことが確認。

・通信電子妨害装置及びHPM（高出力マイクロ波妨害装置）による敵攻撃の抑止・制圧

・電磁パルス（EMP）兵器のイメージ（核爆発による電磁パルス攻撃、ミサイルによる電磁パルス攻撃）

○ハイブリッド戦への対応力強化（ロシア、ウクライナ戦）

・軍事力＋非軍事的手段（標識をつけない特殊部隊や民兵を侵入させ展開し官庁など要所を占拠）

・宣伝戦やサイバー攻撃、経済的脅迫などを組合せ、住民投票においてウクライナを併合

※今後の国家間等の紛争における重要な時代認識

平素から、あらゆる脅威から国家全体を守るため、統制し強化していく枠組みを構成するとともに、国民の意識を始めとし、機能する組織体制を作り上げていくべき時代にきている。

(3) 新たな兵器の登場

・北朝鮮の新型短距離弾道ミサイルが装備か間近と想定され、最高速度はマッハ5～マッハ10で、既存の装備品による対処が困難

・ロシアが極超音速滑空体を実践配備（マッハ27、小型核弾頭搭載も可能）、既存の装備品による対処が困難

(1) 25 防衛計画の大綱（大綱の重要事項）

対中防衛の強化（統合機動防衛力の構築、南西地域の防衛体制の強化）

- ・ 島嶼への侵攻を阻止するための統合的な能力の強化
- ・ 上陸・奪回・確保するための水陸両用作戦能力の整備
- ・ 南西強化の3本柱
- ・ 平素からの部隊等配置による抑止態勢の確立
- ・ 実力部隊を緊急的かつ急速に機動展開
- ・ 水陸両用部隊による奪回

①平素からの部隊配置の推進

与那国島（H28.3 開設/沿岸監視隊）、宮古島（H31.3 開設/警備隊、対空部隊、対艦部隊）、奄美大島（H31.3 開設/警備隊、対空部隊、対艦部隊）

②機動展開能力の強化

即応性を高めた部隊を適切に配置、抑止効果のある各種活動を積極的に実施

③水陸両用作戦能力の整備

島嶼部の奪回・確保を主任務とする水陸機動団を新編（H30.3.27）

※約 2100 名、数年後約 3400 名

(2) 30 防衛計画の大綱（大綱の重要事項）

新たな戦いの領域（宇宙・サイバー・電磁波）の対応強化

- ・ 真に実効的な防衛力として「多次元統合防衛力」の対応強化
- ・ 領域横断作戦に必要な能力の強化
- ・ 宇宙・サイバー・電磁波領域
- ・ 統合ミサイル防衛（機動・展開能力（部隊の機動展開、水陸両用作戦）
- ・ 持続性・強靱性
弾薬・燃料の確保、海上輸送路の確保、重要インフラ防護

○30 防衛大綱における陸自体制改革

- ・ サイバー部隊新編（共同）
- ・ 電磁波戦部隊新編
- ・ 島嶼防衛用高速滑空弾部隊新編
- ・ 海上輸送部隊新編（共同）

(3) 国家安全保障戦略における重要事項

- 宇宙・サイバー・電磁波戦への対応
 - ・国全体の対応力の強化（ハイブリッド戦）
 - ・ミサイル防衛強化
 - ・米国の核の信頼性向上等（中・露・北）
- 中国を対象とした経済・技術安保（サプライチェーン見直し）
- 新たな国家安全保障戦略（NSS）等の策定
 - ・国家安全保障戦略（NSS）
 - ・02 大綱、03 中期防